

【第三種郵便物認可】

ポリフェノール5倍

コシヒカリに黒米交配

茨城のリーゾ

バイオベンチャー企業リーゾ（茨城県つくば市）は、黒米を掛け合わせた米の新品種「コシヒカリつくば黒1号」を開発した。抗酸化作用を持つポリフェノールの含有量が通常のコシヒカリの約5倍ある機能性米。玄米のほか、レトルトパック米飯、玄米フレークと今年度から試験販売を始める。将来は種もみの販売も計画している。同社はコシヒカリと東南アジア産の黒米を掛け合わせて約3年で「コシヒカリつくば黒1号」を開発。2012年8月に品種登録を出願した。

つくばヤーコン（つくば市）、中山環境エンジニアリング（つくば市）、



リーゾが開発したコシヒカリつくば黒1号と通常のコシヒカリ

越後製菓（新潟県長岡市）の協力を得て、昨年、初めて試験栽培を実施。作付面積は2㌥で、約20㌥の米を収穫。このうち約10㌥を売って、高圧で米に水を吸わせて炊いた「高圧浸漬（しんじ）加工パックご飯」を144パック試作した。「もちもちして、香りや味も良い」と評判が良かったことから、今年は作付け規模を10㌥以上に拡大。400㌥500㌥の収穫を見込む。15㌥の米が入ったパックご飯を1000パック作って、1パック500円

茨城県の北茨城市漁業歴史資料館「よう・そろー」（同市）は約2年4カ月ぶりに営業を再開した。写真・大津漁港のそばのため、東日本大震災の津波で展示品が流失し、休館していた。新たに震災に関する市民の証言などを収めた映像を紹介する部屋を新設。名産のアンコワの生態や料理などの展示も充実させた。市が約1億8千万円を投じて改修した。祭礼に使う

北茨城の漁業資料館 津波乗り越え営業再開



震災で休館、2年4カ月ぶり 船などを展示し、海の伝統文化や漁業について学べ、事前予約でシラス漁の体験も可能。併設の物産館で高付加価値の野で販売する。パティを地元から20し、雇用創出にも

吉田良弘社長は「船を直進させる」などの意味を持つ航海用語。

程度で販売する計画だ。の事業者などにライセンスを供与して、地域ブランドだ。

茨城・美浦でパプリカ栽培 最大級の工場稼働

東急建設子会社で農業用植物工場を稼働させた。ガラス張りの温室で養液を使って栽培し、気候や病害虫の影響を抑える。赤色や黄色などのパプリカを初年度に400

用植物工場を稼働させた。ガラス張りの温室で養液を使って栽培し、気候や病害虫の影響を抑える。赤色や黄色などのパプリカを初年度に400

遊休地を活用し、施設面積は約2万600平方㌥。8億円を投資した。温度・湿度調整や養液供給に加え、生産量や作業履歴までコンピュータで管理。品種改良した種を使うほか、通常より高い背丈まで成長させ収穫を増やす。収穫には昇降機を使う。

今月上旬に種をまいて

道の駅「うつのみやろまんちっく村」を運営する

アーマーズ・フォレスト（宇都宮市）は栃木県内のアウトドア企画会社などと組み、宇都宮特産の大谷石の採掘跡地を使った観光商品を開発する。採掘跡地に地下水がたまってできた地底湖でのカヌー体験などを企画して、旅行ツアーとして

栃木の4社 体験型観光で誘客

採掘跡地の独特の雰囲気を生かした商品を企画する（宇都宮市の大谷資料館）

法が少ないことから、新たな観光商品の開発に取り組む。

宇都宮と日光の4企業が「チイキカチ計画」を立ち上げた。客につなげる。

消費増税対策で助言

栃木県内の商工会議所 足利商工会連合会が来春の消費増税に備えて、相談窓口や対策セミナーを開催する。消費増税による影響を減らすための対策を講ずる。

消費増税対策で助言

栃木県内の商工会議所 足利商工会連合会が来春の消費増税に備えて、相談窓口や対策セミナーを開催する。消費増税による影響を減らすための対策を講ずる。

消費増税対策で助言

栃木県内の商工会議所 足利商工会連合会が来春の消費増税に備えて、相談窓口や対策セミナーを開催する。消費増税による影響を減らすための対策を講ずる。

2010年2月1日

5 4 3 2 1 0

「不安」... 機械や技... 模索する現場を追った...